

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	国際情報学部	身分	教授
氏名	岡嶋 裕史		
NAME	OKAJIMA YUSHI		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記のとおりご報告いたします。

1. 研究課題

vTuber を活用した高付加価値で費用対効果の高い教育コンテンツの研究

---

2. 研究期間

2020・2021・2022年度 ※2022年度は新型コロナウイルス感染症特例対応により1年間延長

---

3. 費目別収支決算表

掲載省略

4. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

第1フェーズでは、vTuberが使用しやすいコンテンツ作成環境、機材パッケージ、VRモデルの研究と開発を行った。

低廉化が続いているとはいえ、VRコンテンツの開発には未だ少くないコストがかかる。本研究が狙いとする新しい形での教育パッケージの普及には、末端利用者がコンテンツ制作に参加する、いわゆるCGMが育つ環境を整備することが必須と考えられるため、特に教育用コンテンツに特化して、低廉で制作効率の高いコンテンツ作成環境を研究した。副産物として中央大学のチュー王子のVRMモデルなどを構築し、アセットとして公開した。

コンテンツ作成環境自体を開発することは、費用の面でも、工数的コストの面でも不可能であるため、既存のツール（可能な限りオープンソースで、無償提供されているもの）の組み合わせによって、システムインテグレートを行った。

研究を企画した段階ではコロナ禍は想定できなかったため、2020年度に入ってから劇的な外部環境の変化があった。生活様式の変化に伴う業務空間、受講空間の仮想化が活性化され、社会に急速に受容され、メタバースのブームを産んだ。そこで、本研究も必ずしもVRにこだわるのではなく、いわゆるメタバースに適用できるよう開発仕様を変更した。コロナ禍で授業のZoom化が加速する中で、オンライン授業から落ちこぼれる児童、つまらないと感じる生徒は多数にのぼったため、彼らを救えるよう低廉化により注力した仕様とした。クラスターやリアリティでの教育配信が可能なアセットと教育手法を確立し、2023年3月には超体験NHKフェスにおいてメタバースからの授業を行えるほどに成熟させた。

（英文）

I researched and developed content creation environments, equipment packages, and VR models that are easy for vTuber to use.

Even though prices continue to drop, the cost of developing VR content is still high.

The purpose of this research is to disseminate a new educational package. It is essential that the end users participate in content creation, that is, to create an environment in which CGM can grow. Focusing on educational content, I researched a content creation environment that is cheap and highly productive.